

新庁舎建設事業に係る設計内容報告及び意見交換会

日時：平成 29 年 4 月 22 日 13:32～15:44

場所：安房公民館

参加者： 住民 17 人

内 容

進行) 私が、意見交換の司会をさせていただきますけれども、震災で感じたことなんですけど、震災のときに住民さんと行政さんの間に入ってコーディネーターをしました。そうしますと、そういう？場合には、かなり意見の強い意見が出て、住民さんから出て行政の方は大変困っていたことがありました。それはですね、実はその行政の方々も震災を受けて避難の状態の中で一生懸命しておられたということですね、やはりこれは、住民と行政の中でですね、入って仲介者が意見をひとついただいて、それを、どういう意見かということ咀嚼してお伝えして進めていきたいというふうな、そういう立場をとっておりますので、よろしく願いいたします。それでは、意見がございましたら、挙手をお願いします。

住民) ちょっと腑に落ちないところなんですけど。実は今まで私が聞いてる中では、この返済については、20年間と聞いておったんです。先ほど、24年という言葉が出てきたんですけど、前は4年間くらい据え置きで20年間で起債を返還するという話を聞いたんですけど、そのところをお願いします。24年という言葉が出てきましたが。

町) 借り入れた地方債については、耐用年数をもとに償還年数が決まります。今回の建物は木造建築物なので、地方債の借入をした場合の償還の仕方として、まず、据置期間が何年か定められています。その後、元本を含まったところの元本プラス利子で償還をします。我々のところで今、シュミレーションしているのが、最初の4年間で利子のみの返済、それが4年。残りの20年、合わせて24年になる、そういう意味で20年、24年という、元本自体は20年で償還。

住民) 私、8千万円と聞いておったんですけど、7千いくらって言ったもんね。24年に延びたのかなと思ったの。

町) この間まで設計・・・

住民) 返済期間は20年ですか。

町) 元本の返済が20年、利子を含めると24年。

進行) ありがとうございます。他にお願いたします。

住民) 今、話し合いたいって言ってらしたとずれることもあると思うんですけど、ただ、今、このような説明会をされた中で疑問に思うことがあるので、やはり質問させていただきたいと思います。とても素敵な設計で、素敵な庁舎だなあということを説明を伺っていて思ったんですけど、本当にどうし

てもどうしても疑問に思ってしまうのが、それが今の屋久島町にとって身の丈に合った買い物なのでしょうかという部分なんですけれども。という、あまりにも漠然とし過ぎてしまうので、今日説明があったところで、疑問に思ったところを具体的に伺いたいと思います。古い庁舎ですね、各庁舎の方の修繕だとか、メンテナンスにも今後費用がかかってくるというところがあるので、それよりも新築をというお話もあったかと思うんですけれども。この新築、今度される予定の新庁舎の維持管理、修繕にかかる費用というのは、年間あたりおいくらぐらいで見積もってらっしゃるのでしょうか。あの、その計画というのはありますでしょうか。

進行) メンテ費用についてのご質問ですね。

住民) 修繕とか壊れたりとかいうのもあると思うんですよ。説明の中でも、やはり木造の建物っていうのは、修繕する、一部壊れれば修繕すること、メンテナンスしていくことが大前提の建物だっていうことが、先ほどからの説明を伺っててもそう思うんですけれども。その辺をどのように計画的に考えているのか、もちろんどこが壊れるだとか、壊れたところによっていくらかかるとか変わってくると思うんですよ。だけれども、だとしてもそれをある程度予測してね、年間あたり積み立てておくだとか、計画しておくと考えておくことは行政として当然のことだと思うんですが、この辺どのようにお考えでしょうか。

進行) はい、ありがとうございます。それでは、メンテ費用について計画があるか、あるいは積み立て等についてどうお考えか。建築の話が一つあると思いますね。

町) 維持管理経費として、先ほど旧庁舎の維持管理、水道光熱のお話をしていますが、新庁舎では、維持管理経費として、光熱水費を年間約 9 百万程度見込んでおります。補修につきましては、まだ設計の方とは話はしてないんですが、当初の目標でどうしても今の施設の状況を見ますと、どうしてもメンテナンス計画を作って、ある程度決まった年数で補修をしていくことによって、長持ちするんじゃないかと我々は思っています。ですから、今後施工が終わる段階で、雨の状況、陽当たりの状況で、どれだけ傷むのかというのは、実際想定される部分と実際のところは、若干気象的なものもデータはありますが、傷みの部分を見ながらですね、当初の 1 年間を見ながら、今後何年間、何年間後に一度、板を塗り替えるだとか、貼りかえるとか、そういうところは必要になってくると思います。それによって、費用についてはだいぶ変わると思うんですが、我々の方といたしましては、完成までにそういうメンテナンスの計画を作っていきたいという風に思っています。あとについて、維持、メンテナンスのサイクル等については、設計の方から説明をいたします。

設計) 建物は、基本的に板とかコンクリートであろうが、鉄骨であろうが、木造であろうが、維持管理しないと壊れます。それは全く同じでございます。でも、僕らは木造で今のように勾配屋根を造って水を排除して、それから庇を大きく出す、それで外壁を守る。それから先ほどちょっと説明しましたけれど、下からくる水に対してコンクリートの立ち上がりを設ける、そういうことで、維持管理費は最小限になると思っています。具体的にどこがどういうふうに傷むかっていうのは見えてませんので、それな

りにちょっと想定をしてみて、また維持管理費のご相談は差し上げたいと思いますが、そんなに他の建物と大きく変わるような維持管理費かかるとは思っておりません。

進行) よろしいですか。

住民) ありがとうございます。ただ、他の建物と比べてというよりも、今の屋久島町の現状をみると、自然公園のこの、宮之浦のですね、川沿いのところのデッキだったりだとか、宮之浦でもボードウォークだったり、その他でもいろいろあると思うんですけど、木造の建造物が壊れたまんま放置されているっていう状況を見てると、ほんとに子どもなんかがよく遊ぶ場所で、それなのに穴が開いたりとか腐ったりとか釘が出てたりとかしてて、すごい怖いですよね。なんか、まさか屋久島の新庁舎、新しくできる新庁舎がそんなことになってしまわないだろうかって不安になってしまうのが、正直な気持ちなんです。で、今の時点で計画がないってことでちょっとますます大丈夫なのかなあって思ってますね、なんか。

設計) わかりました。とてもよくわかりました。木造を水、水のかかる、水が滞留する所に置いとけば、木は腐ります。だから、今おっしゃったような状況になります。ところが、この建物というのは、ちゃんと底を出して、水が滞留しないような所作を徹底しております。建物の耐久性というのは、普通は設計の段階でいろんなことがほぼ決まるんですね。どういう耐久性、水に対する処置とか、風に対する処置をしてきたということなんです。ここにありますように、底をですね、1m800 出しますと、大体その 2 倍の壁の高さは保護されます。ですから、ほとんどの外壁は、今その保護範囲に入っておりますので、ほんとに必要な最小限、何年に 1 回の塗装の塗り替えだとか、で済むということになります。ですから、木造がちゃんと勾配屋根を建てて底を出して保護すれば、木造が長持ちするというのは日本の木造建築の古いものも含めてですね、非常に立証されております。ですから、必要最小限の維持管理費で我々はすむと。それは今、まさしくおっしゃったように健全な状態で保つという前提でございますので、その費用が木造のこういう建物をした場合に最小限で済むということで、また精査したいと思います。

進行) はい、ありがとうございました。それからですね、はい、先にどうぞ。

住民) 今の建築に対する関連なんですけれど、基礎の方はどういう形になっているんですか。布基礎ですか、考えてらっしゃるの。

進行) 建築の構造についての、ということでよろしいですか。

設計) 基本的には、木造でございますので、軽くて済むので最小限のコンクリートのベタ基礎構造になっております。それで、立ち上がりを設ける作業を、要するにフラットな基礎ベースを作って、立ち上がりを設け、それからさらに犬走りを出しておりますので、構造的に非常に安定していると同時に、シロアリとかそれに対する防蟻性能もちゃんとそこで確保するというで考えております。

住民) 一応、ここの土地柄ってというか、先ほどから気になさってるのは、雨仕舞ですとか、雨の防水対策ですよ、ということなんですけど。一般的に布基礎ってというかそういうコンクリート基礎にしますよね、かなり中が蒸れるわけなんですよ。それで大体、シロアリがくっくっくってという形が多いんですけど。屋久島独特の気候だと思えるんですけど、ものすごい数の、設計屋さんの方で梅雨明け時期にいらしたことがあります、シロアリが湧いた頃に。吹雪のように来るわけなんですよね。結局、そういうのに集られちゃうと、何て言うんですか、シロアリ対策で、坪当たり 30 万とか、そういう予算をとらなくちゃいけないんですよ、駆除するのに。下手すれば駆除できなくて、また再三にわたってそういうことをしなくちゃいけない。普通、住宅なんかですとね、黒芯とか使ってないんで、注入剤ですか、鹿児島の方に送って、注入剤を使用したりするわけなんですよね、腐れとかシロアリ対策に。今回も、今黒芯の話は、今日、私初めて聞いたんで、あれなんですけど。注入剤と黒芯の比較というか、どの程度に防げるもんですか、そのシロアリ。

進行) いいですか。

設計) 今、お話したように、コンクリートできちっとしたベースを作って、シロアリが集らないようにする。それから、土台につきましては防腐土台という、要するに防腐処理をした土台を使う。これはしようがないので、島内では処理できませんので鹿児島に出して、防腐処理したものを使う、という方法で検討しております。あの先ほどありましたように飛んでくるとか、一番問題なのは蟻道ができることなんです、シロアリが。それを発見、早期発見できるように、昔の人がやっていたような形の、構造体を現しにするとか、そういうシロアリの蟻道が見えるような形の処理をして防ぐ手立てを講じております。

住民) わかりました。

進行) ありがとうございます。他、事務棟、ホール棟についてとかですね。あるいは移転後の支所等の活用、林業振興について、何かございましたらお願いいたします。

住民) 造ることに関しては、いろいろ意見が出てますから、その害のないようなやつを造ってもらいたいと思います。私は気にしてるのはですね、この話が最初、何年か前 7 億とかそれくらいだったです。一度ここでプレゼンテーションしたときは 12 億だったんですよ。蓋を開けたら 17 億とか、今 20 億とかなってます。私は心配してるのは、これ以上事業費が増えることを心配してます。先ほど、総事業費 20 億ちょっとってありましたけど、これは、議会で総事業費の議決を得ているのかですね、承認を。そういうところは心配されるところです。今後事業費も、また蓋を開けたら 2 億増えたとか、3 億増えたとか、そういう行政じゃなくて、ここでちゃんともう、いくらかかるよと議会に示してですね、もうこんだけですよということでもらいたいと思います。そこを住民の方も心配していると思いますので、そのことをやっぱり行政の方ででしっかりしてください。

進行) はい、わかりました。事業費についてご説明をしていただきますか。

町) 町長の方が、議会の方、議会の中で、総事業費は 20 億円ということで、20 億円を超えることはないという発言をしております。そういうことから、我々といたしましても 20 億以内で収めるための方策というのは、職員としての努力はしていきますけれども、町長の方の決定としては 20 億を超えないということ、議会の中でも発言しましたので、一応それは決定ということで、ご了解いただければと思います。

進行) ありがとうございます。他、ございますか。

住民) 今後、森林整備、振興ですか、これについて、今回の建築の過程の中で、四面の鉋とか、モルダーとか、そういう建築機材を購入して、それは屋久島地杉生産有限会社ですか。ちょっとはつきりわからなかったんですけど、そちらの方で管理するということなんですが。これ、町で購入をして、この会社に管理を任せるといことですかね。それとこの、会社の構成は、どういう形になっているのか、そこを教えてくださいたいと思います。

進行) ありがとうございます。森林整備についてです。そちらの方でよろしいですか。事業を入れると言いますか、事業組合の話がありましたので、その件についてお願いします。

町) このたびですね、屋久島の方で製材までは今までできてたんですけど、最終加工というのができませんでした。今回の庁舎建設を契機にですね、そういった最終加工までできる施設を備えようということで、四面鉋であったりですね、モルダー加工機といまして、板材とかの貼りあわせのオスメスをつけるような、そういった軸を切っていく、そういった機械だったり、人工乾燥機であったりですね、そういったものを整備しました。こちらにつきましては、管理についてはですね、町の方が管理をするようになってます。庁舎が建つまでの 2 ヶ年の間は、今、リース契約で支払いするようになってるんですけど、町の方でお支払いをして、2 年後にはですね先ほどの会社組織というのは、有限責任共同組合って申し上げまして、出資率に応じまして責任を分配、分担するという、そういった会社組織になります。そちらにつきましては、地元の製材所、林業関係者、お声かけしたんですけど、そこで名乗りが上がったところが、今稼働している 2 ヶ所の製材所、有水製材所さんと工房屋久島さん、ちょっと建築の方で、今の木材調達管理で携わっていただいております稲穂工房という方、その会社の 3 社の方で名乗りがありましたので、そこで共同でやっていただくことになっております。

進行) ありがとうございます。他、ご質問は。

住民) 建築の計画、全体の建物の構造についてちょっとご質問します。アルセッドの方の、今いろいろと屋久島の風土に合わせて、いろんな屋久島の建物のあり方を考えて、よく研究したという話もありました。例えば、周辺に生垣を造って建物自体の躯体ではちょっとあれだから、生垣の方で補充的にそういう風を防ぐとか、雨が多いから軒を出すようにするとか、それから切妻の方が丈夫だと、こういうことなどはあったんですけど、僕は、大工なんですけどね、切妻が風に強いっていうことは、以前はそのような一般的ならえ方が、例えば寄棟だと瓦の損失もあって経済効果がよくない、いろんなあったんで

すけど。最近、スレート板とかコロニアルという、そういう素材を使ってるんですよね、使うもんですから、台風に対する、剥がれるとかいうのは瓦よりも無難なわけですよ。それから棟も高く瓦のように高くしないでいいということなどがあって、材質はコロニアルが選ばれてくるもんだから、瓦の生産が少なくなっていないですか、最近。地震との関係もあって。それから、切妻が風に強いっていうけども、そういう瓦の問題がなければ、最近、寄棟なんですよ。寄棟でないと風に駄目だっていう考えが大工の中ではあるっていうことと、それから軒を、雨のために軒を2m近くも出すっていうけど、風に対して屋久島は風の中にね、被害を受けるのは基本的に竜巻なんですよ。瞬間的にあつとくるのは、僕もですね、去年、おとしですね、原の方で家の修理に参加することができたんですけど、それはね、屋根、切妻あったら、反対側にでっかいソーラーもついてるのは、座ってたのが、それが棟を越えてですね、はるか軒を越えてひっくり返ってるんですよ。それ見てもう、心臓が止まる思いしたんですけどね。そういうすごいね、竜巻なんかね、僕も家造って家がポーンと屋根が抜けたことがあったんです。それから平野の方に豪邸があったんですけどね、あれも台風でね、スポーツと抜けてですね、破壊したんですよ。それからですね、ちょうどね失礼ですけどね、小瀬田のね、種子島の間、あそこにね、去年おとし、竜巻が4本も立ってるんですよ。で、永久保の方から見てましてね、うわーっと思ったんですけど。そういう風にね、果たしてその軒を長くするとか、切妻のね、切妻の例えば耐力壁の計算の方法で、屋根の妻の方が、こう風から出てるじゃないですか。その分はね、屋根の方向に、屋根に向かって外から向かう風を受ける場合には効果的かもしれんけども、三角の内のこの「への字型」今、言いますかね、「への字型」の内側のこの部分の風がこっちから来たら、屋根はすっ飛ばんですよ。そういう力に対してね、どの程度の金具方法ね、とかそんなのやってんのかそういうのお聞きしたいんです。

進行) 貴重なご意見ありがとうございました。大工さんで地元にて、いろいろなことを考えてやっておられるというのがよくわかります。その点について、今のお話をですね、ご理解っていうのですかね、聞いていかがでしょうか。建築の方でお願いいたします。防風林の木をだす切妻、防風林はいいですね。切妻。

設計) 2つの話。一つはコロニアルみたいなものをどうして使わないんだという話の一つと、それから台風の話だという風に理解しています。

住民) 切妻の風に対する・・・

設計) それの台風の話として理解しています。まず、コロニアルの話、我々は伝統的な木造住宅のいろんな所作を勉強してまして、瓦っていうのはやっぱり、先ほど彼が言いましたように、焼き固めたり、焼くものですから、非常に長持ちします。材料そのものは、50年100年持ちます。それをどうやってその下地を腐らせないようにするかという工法が最近、いろいろ水の処理の問題、通気の問題とか、それからさらに、最近の工法が改良されて、長持ちすることがわかっておりますので、そういう瓦を採用したいと思いました。そのときに、どうしてコロニアルを使わないのかというと、確かにコロニアルっていうのは、最近の材料としてはなかなか優れたものなんですけど、あれが繊維セメント板といいまして、セメント板に塗装を焼き付けたものなんですよ。そうするとやっぱり焼き物に比べて耐久性が低いのと、

それから非常に重ねが大きくて毛細管が起こって、で耐久性そのものはやっぱり 30 年くらいです。それをメンテナンスしようと思うと、塗装をやると、そこでまた毛細管が起こる、とちょっと悪循環が起こるという話がありますんで、それをちょっと避けさせていただきました。やっぱり 50 年 60 年 100 年建物が長く続く、機能していくというための処置として瓦屋根を選ばしていただいております。それから、耐風圧についても、今まさしくおっしゃるとおりでございますが、それについてはちょっと別の者から数値を交えて話をします。

設計) まず、数値に関してはですね、全て構造の計算をしてですね、軒の出が 1.8m でも問題ないということをしちんと確認しております。それから、今の話で瓦を前提にすると、切妻屋根という風に大工さんたちに教えていただいたんですけども、瓦にするなら棟が一番低くなる、寄棟にするとですね、隅棟より本棟の方が高くなりますし、隅棟を設けることでの、雨仕舞の弱点というのが発生するというので、瓦を前提にすると、切妻が最も優れていて、かつそれを、切妻でも L 字に曲げると谷が生じますけども、谷を設けない、切妻だけの構成で屋根を造っていくという話を大事にして、今回の設計でもそういう屋根の形を取り入れているところです。

進行) はい、どうぞ。

住民) コロニアルは 30 年と言いますけども、木造の耐用年数いくらでみてるですか。50 年とか 100 年とか、そんな長期でみてるわけじゃないでしょ。それから、もう一つは、さっき言った切妻の妻の方の風の風圧を受けるのは、内側からずっと側に向かう力に対して、あの軒のね 1m 以上も、ま、2m も出しますと大変なことになると思うんですよ。それの方は、一般の人にもわかるような説明をお願いします。

設計) この建物は 50 年 100 年、場合によっては 200 年もつような所作でやっております。それで先ほどお話しましたようにメンテナンスをしながら使い続けるということです。木造建築っていうのは、メンテナンスして使い続ければ 1000 年のオーダーをもっておりますので、我々はそういう木造建築ということを想定して、設計をしております。既に我々木造の、日本で木造が始まったのはまだ、再度始まったのは 30 年なんです。30 年前にやったものを同じような所作をした、したのを見てきました。そういうことはやっぱり表面が劣化したりなんかしてますけれど、深刻な、甚大な劣化、そういうものは起こっておりませんので、自信を持ちながらそういうふうにおすすめております。それから、庇の問題につきましては、構造計算、最近の構造計算はちゃんとそういう、どういう風がどういう来て、どういう風に来たらどういう風に、軒先、軒の出元に作用して、どういうふうな力がかかったということがちゃんと構造計算で検討できます。それについて、基準法に従って、それに相応のもの、それで短期では、その 1.5 倍の荷重に耐えることをちゃんと計算で検証して、場合によってはそれに応じた必要な金物を採用しながら万全な処置をしてございます。

住民) それでですね、台風だけじゃなくて、竜巻というさっき言った、すごくその地域は、さっき言ったようにですね、竜巻による被害が基本的なんですよ、木造の場合は。それに対する、軒を出した場合は致命的じゃないのか、そういうことなんです。

設計) 基準法は、大体 10 分間平均風速というのを決めるんですね。その 1.5 倍、今おっしゃったように、竜巻の瞬時の力にも耐えるということで計算をしておりますんで、基本的に問題ないという風に我々は、理解しております。

進行) 今の 1.5 倍とかいう数値のね見方が、意味が一般の方は意味がわからないと思いますけど。

設計) ちょっと専門的な話になって恐縮なんですけども、建築基準法は風圧力に対してどういう考えを持っているかというところから、ちょっとご説明をしまけど、建築基準法で定められている風圧力というのは、まず、500 年に一度起きるぐらいの稀な暴風雨に対して倒れないという基準ですね。かつ 50 年に一度発生する程度の暴風雨に対して損傷しないと。これはどれぐらいかといいますと 500 年に一度というのが 1991 年の宮古島で観測された台風で、50 年に一度というのがいわゆる伊勢湾台風なんですね。で、それぞれの地域に定められた風圧係数に応じて構造計算をなさいという基準になっておまして、当然東京では 30 数 m の平均風速に対応すればいいんですけど、屋久島では、沖縄に次いで日本で 2 番目に厳しい 44m という風速で、安全性を検証するというのがあります。この 44m というのが、10 分間の平均風速をいっておまして、最大瞬間風速というのはその 1.5 倍強ぐらいの 65~70 ぐらいの間の風速を想定しているということになります。屋久島の地域の防災計画で想定している台風というのが、昭和 60 年の 56.7m ですし、過去一番屋久島で厳しかった台風というのが、1964 年の前の東京オリンピックのときにですけども、68.5 っていうのがあるんですね。これ、小瀬田の空港のところで観測された、日本でも歴代でも 9 番目のものすごい台風なんですけど。ほぼそれを想定した耐風圧性になっているということ、ちょっと補足させていただきます。

進行) 確かに、お話を聞いてて、災害に対してですね、きちんととらえなければいけないと。私の熊本で感じたことなんですけど、熊本で断層の上はどうしようもないんですが、こんなに、何と言いますかですね、分厚い 50 cm、1m のやつでも割れています。でも、断層とはちょっと離れたところで、いわゆる地盤の問題を含めてですね、建物の構造の問題で、これは耐震等級 3 相当、あるいは耐震等級 3 ぐらいの建物については、同じ地区でもですね、倒壊してないんですね。倒れてないんです。ものすごい震度 7、これなんかも震度 7 というと、これ基準からするとかなりあれですよ、最大震度ですよ。それに対して、今の基準法の耐震等級 3 では、倒れてないし、どうもなってないです、一番ひどいところは。それで、やはりきちっとした建物、柱の直下率だとか、あるいは壁量だとか、そういうことを考えた建築、それから地盤をきちっと考えた建築だとかいうのはとても大事だと、おっしゃるようなそのつむじ風だとか台風だとか、そういうのに耐えうるような、災害に耐えうるような建築をやったりしなければ、正直今回の建物を建てるにあたって、これから先はもっともっと災害が起きてくる可能性がありますので、しっかり考えてやっていかなければいけないだろうというふうに私自身も思っております。すみません、他に、林業振興だとか、事務棟だとか、それから移転後の支所の活用だとか、ございましたらいかがでしょうか。

住民) 最初に、私、栗生の初日の報告会と、この会と 2 回、参加させていただきました。そのときも申し上げましたけれども、対話の集会といいながら、町長が出ていないというのは、ということから推

察してもですね、議会で 29 年度の予算を見直すと言ったにも関わらず、参加していないということは、「あ、これはもう見直しはないんだな。」また、設計事務所さんも、これ以上見直しがあったらですね、大変ですから。というのは、私は建設には賛成したんです。だけど、一番必要のないフォーラム棟が、もう工事に入りましたので、反対のしようがない。なぜ、フォーラム棟が必要ないかと言うと、屋久島の地域性なんですよ。100km のところに 26 の集落が散在しているようなところがですね、一極集中的に人が集まるなんてことはありえません。あそこで催し物だとかフォーラムだとか、情報発信の場にすると言ってもですね、おそらく、完成後の最初の半年か 1 年でしょ、使われるのは。若い移住者の人たちがアイデアを持ってますから、半年か 1 年は使われますけどね、おそらくは、あとは閑散としたものだろうと予想はしているんですが。そこで、私は申し上げたいのは、尾之間の支所、安房支所、宮之浦の支所を、そういうフォーラム機能を含めたね、人が集合するような施設を造って、情報発信するような場所にしなければ、おそらくこの 3 つの施設は、廃屋になる可能性がある。だから、私が申し上げたいのは、推進室の職員の皆様は、建物が建って終わりじゃなくて、その後のその支所のあり方というのをですね、どうするかというところまでを完成させる仕事に取り組んでいただきたい、いうふうに思います。今のところ、支所の使い道だとか、とかいうのは全く計画にはないわけですよ。そういうふうにしていただきたいという風に思います。

進行) ありがとうございます。支所の活用について、フォーラム機能等を持ったらどうか、というご意見もありましたので。それと支所の計画について、総合窓口等も含めたですね、お話をお願いしたいと。それからですね、フォーラム棟を造っても最初だけではないかと話がありましたので、じゃ実際にどのようにしたら、住民を含めてですね、行政も含めてやっていったらいいのかというのは考えなければいけないところだろうと思います。あくまでも、これ私、構想に関わっておりますのでわかりますが、各地にいろいろものがあって、その中で出てきた意見として、このフォーラム棟のきっかけになるような意見があったものですから、それを組み立てて、設計の方に反映したと思います。その点についてもですね、今後どんなふうにしていったらいいのか、また皆さんと一緒に考えていく必要があるのかなと、私は思っております。じゃ、よろしくをお願いします。

町) 当初、推進室の役割ということで、支所、出張所のあり方、あと組織機構の編成というところは、もちろん業務に入っております。そこは、建設と並行して、ある程度の建設が終わる前には、目途を出して。というのはまた、皆さんからの意見、行政からの意見もちろん各課意見があると思いますが、皆さんの意見を、特に地元の方々のどういうふうに使いたいというような意見をいただきながら、有効な方法で活用はしていきたいということで。今、フォーラムとして使うということの提案がありましたので、ご意見として伺っておきたいと思います。

進行) はい、ありがとうございました。是非ですね、住民の方からもこういう形で、支所の活用についてのご提言ありましたので、今後も是非、貴重なご意見をいただきながらですね、進めていく必要があるのかなというふうに思います。ありがとうございました。他、意見ございませんか。時間がきましたけど、あと一つくらい意見が、はい、どうぞ。

住民) 進行さんは先ほどですね、要するに1万円を・・・

進行) 1万円を5万円に、資産価値の話ですね

住民) はい。この島ってほんとにお金を落とすところがないんですよ、はっきり言って。で、ほんとに買いたいものっていうのがですね、買えないところであるのですね。私はフォーラム棟を造るのであれば、どこにでもある道の駅っていうのがですね、ほんとにその地産地消を、ほんとにいいものをですね、地域の場所ですね、例えば港だとか空港だとか、そういうところっていうのは、観光客がどんどん来るわけですよ。そういうところに、島の特産の、ほんとにいい食べ物だったりですね、屋久島はこういうところなんだっていう宣伝もできるしですね。当然のことながら、その農産品をですね、町民がですね、自由にいくらでも買えるっていう、ほんとに今買えるのがですね、一部でやってる有人市と無人市なんですよ。でも、無人市のおばちゃんたちがですね、お金を入れないで持って行ってしまったということで、すごく困ってるって。ほんとに一円が入ってるって、ほんとに泣いてるんですよ。だから、そういうところですね、有人市を兼ねた道の駅、どこにでもある道の駅がですね、どうしてこの島にはないのかっていうのはほんとに思ってるんですね。そういうところがあればですね、町主体でですね、フォーラム棟を造るよりも、フォーラム棟を空港なり港にですね、木造で、それこそほんとに屋久島を宣伝する木造で造って、その観光客と町民が自由にいつでも買い物ができる、見学ができる、こういう素晴らしいものがあるってものをですね、宣伝できるようなものがですね、そういう港、空港にですね、是非造っていただけたらよかったんじゃないかと思ってます。もう、決まってしまったものなので、そういうことができないってのはわかりますけれども、是非ですね、そういう案があるのであれば、あのフォーラム棟自体に執着しませんので、是非町主体でですね、素敵なそういう木造、屋久杉をですね、活用するという意味においてですね、是非そういうものを町民がお金を落とす場所としてですね、造っていただければと思います。期待していますので、よろしくお願いします。

進行) 大変、ありがとうございました。ほんとに、道の駅がこちらほんとにないので、これは是非ですね、今後の一つの課題として検討していただきたいと私も思います。まあ、大体、すみません、ご意見をいただきまして、時間がちょっと過ぎてしまいましたので、これで終わりたいと思いますがよろしいでしょうか。はい、ありがとうございました。

終了。